

学校行事参加型・講演会型・子育てサロン型・在宅取組型（幼稚園）

学校名等	神戸町立下宮幼稚園
実施日時	6/26 ・ 9/12 ・ 9/30～10/7
会場	幼稚園・各家庭
参加人数	全園児61名・保護者
学習課題（分野）	子どもの心と体の健康
運営者の願い	「心も体も元気いっぱい下幼っ子」のスローガンのもと、子ども達の心と体の健康に焦点を当てて実施する。 野菜の栽培が盛んな地域だが、苦手な子どもが多く、実際に種から野菜を育て、食べることで食への意識の向上を目指す。 就労等で親子の触れ合いの時間が少なくなっている現状を踏まえ、ふれあいの時間を確保し、共通の思いが膨らむ読み聞かせの継続を願う。
学 習 の 内 容	
<p><食育講座 紙芝居・ポット栽培制作> ～地元の野菜を使ったレシピ～ 講師:JAにしみの支店 JAにしみの支店の協力を得て、リーフレタスの栽培に挑戦。子どもたちが、紙コップのポットに絵を描き、親子で土を入れ、種まきを行った。家庭へ持ち帰り栽培する中で、成長を楽しみに水をやり、収穫したレタスを食べる喜びを親子で味わうことができた。 また、紙芝居「おやおや、もったいない」を、読み聞かせてもらい、食べ物を残している動物たちに「残したら、もったいないね～」と、声に出しながら見る事ができた。保護者の方々は、地元の野菜を使ったレシピをたくさん紹介してもらい、後日、家庭で作ったり、食べたりした親子の感想を寄せてくださった。</p> <p><保護者会研修会> ～ママのための食育講座～ 講師:本巢シキシマ産業の馬場美穂先生 麩を使った体に優しいおやつを紹介や忙しいママへの時短レシピなどを教えていただいた。体に優しい食べ物を子どもたちに与えるために、添加物の少ない安心なおやつを選ぶことや昆布やカツオだしを生かした幼少期の味覚育てを学んだ。また、好き嫌いや遊び食べ等家庭での悩みを出し合う中で、「食べない姿」をマイナスととらえるのではなく「必要がないから食べない」「子どもの体の声をよく聞いてあげる」ことが大切であり、まずは大人が「おいしいね」といって食べる姿をたくさん見せることが重要である。徐々に色々な物が食べられるようになっていくので急がなくてもよいことを学び、「無理に食べさせなくてもよい」と肩の荷が下りたようであった。家庭菜園で草取り・水やり・収穫体験をしたり、魚や野菜などの買い物に連れて行き、実際の食材を見たり、親子で調理する等、目の当たりにすることの大切さを学んだ。</p> <p><茶話会> ～保護者の交流会～ 実際に調理したおやつを囲んで、普段話したことのない人とも子育ての悩みなどを自由に話したり聞いたりすることができた。悩みに共感する場面があったり、参考にしたい意見に出会ったり、自分の子育てを振り返る中で、もっといろんなお母さん達とも「話してみたい」という感想を持たれた方も多くあった。園行事の後に行うことで時間を有効に使うことができた。</p> <p><親子ふれあい週間> ～絵本読み聞かせの1週間～ 9/30～10/7までの1週間は絵本読み聞かせ週間として在宅で取り組み、読んだ絵本のタイトルや著者名、その時々の子どもの様子やつぶやきを記録し、結果を集計した。絵本の読み聞かせが大切だと感じながらもなかなか取り組めなかった方も、子ども達の喜ぶ姿に取り組み期間以降も継続しているという声も聞かれた。お互い子どもたちに好評だった絵本や是非読み聞かせたい絵本の紹介をポスターにして張り出したことも興味を広げることにつながった。</p> <p><保護者アンケートより></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で食育の勉強ができ、手作りのポット栽培にも興味をもって取り組むことができた。 ・子どもが嫌いなものでも“食べさせないといけない”という気持ちを持ちすぎていた。もう少し気楽に“食卓が楽しいもの”になるような工夫をしていきたいと思った。 ・いつもはゆっくり話す機会のなかったお母さんたちとも悩みを共有し、話すことができた。 ・読み聞かせは、親子の触れ合いと同時に、子どもの新しい一面を知るよいきっかけとなった。 	



行事参加 +在宅取組み

種をまき、水をやり、自分で育てた野菜を収穫し食べる喜びは格別。また、うまく育たなかった経験も大切な体験となった。



食育講座

食に関心を持つことは、社会の出来事・自然・生きることそのものへの関心の強い子に繋がる。

大人が「おいしいね!」と、楽しく食べる姿を見せることが一番大切な「食育」であることを学んだ。



子育てサロン 茶話会

菓子やお茶を飲みながら気軽に子育ての悩みを話せる場として行事の後などに設けた。参加者も多くホッとできるひとときとなった。



全家庭における 在宅での取組み

家庭で都合の良い日に取り組めるようにしたことで無理なく取り組めた。

子ども達が以前より絵本に興味を示し、今日は何れを読んでもらおうかと楽しみにする姿が保護者の気持ちをより動かした。

